



幼稚部ウインタースクール 楽しかったよ!



平成24年12月26日水曜日に、幼稚部ウインタースクールを開催しました。今年で2回目のウインタースクールでしたが、多くの教育相談のおともだちが参加してくれました。

参加者は、子ども10名、大人8名、小学部の先生3名と幼稚部の先生7名でした。お兄ちゃんやお姉ちゃん、パパやママも一緒に参加してくれて、みんなで手遊び歌を歌ったり、ダンスをしたり、ルーチェパフェを作ったりして楽しく遊びました。

自由遊びの時間には、シーツブランコやままごと遊び、トンネルくぐりなどをして遊びました。

参加してくれたおともだちありがとう。また、みんなでたくさん遊ぼうね。



冬の補聴器トラブルに気を付けよう



結露

電源を切っている冷え切った補聴器を暖かい室内に持ち込んだ場合は、内部に結露している場合があるので、すぐにスイッチを入れず、室温になじんでから使用するようになしてください。

電池

電池が冷えていると、化学反応が進みません。また、締め切った部屋で、火気を使う暖房器具を使用し続けると、二酸化炭素が増えて電池の消耗が激しくなります。部屋の換気が大事です。

また、空気電池は開封後、反応が始まるまで、しばらく待ってから使いましょう。



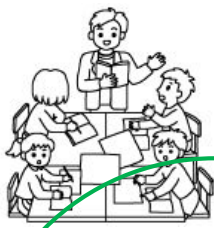
ふれあいコンサートのご案内

♪日時♪ 平成25年2月17日(日)
13:30~15:30
(受け付け開始 12:30)

♪場所♪ 松山市総合福祉センター
1階 大会議室
(松山市若草町8-2)

♪主催♪ 手話学習会 火曜会

♪内容♪ 各小学校児童による発表
手話学習会「火曜会」の発表
ゲームなどによる交流



ろう集団の大切さを改めて考えてみよう！

「私らしく輝いて」

高等部2年 女子

みなさんは補聴器をつけた聴覚障害者とお話をしたことがありますか。実は、私には聴覚に障害があります。

私は、三歳の時に耳が聞こえなくなり、補聴器を付けるようになりました。実は補聴器は、付けさえすれば全て聞こえるというものではありません。私も、周囲がザワザワしている中での会話は、聞き取りが難しい状況です。ただ、大きな声ではっきりと話してくれれば分かります。

私は地元の小学校に通い、地元の中学校に進学しました。最初は何ごともなく学校生活を送っていたのですがしばらくすると勉強についていけず、友達との会話にも入ることができなくなり、段々と孤立するようになりました。先生や友達に相談しましたが、私の悩みがなくなることはありませんでした。私は、このままではだめだと考え、両親とも話し合い、二年生の時に松山聾学校の中学部に転校しました。

その時の私には、これといった将来の目標はありませんでした。なにより、聴覚に障害のある自分に何ができるだろうかという不安が大きかったように思います。

けれども、私の将来を決定付ける二つの転機が訪れました。一つは、中学部の職場体験学習です。福祉施設での短い体験でしたが、担当の方から「あなたは福祉士に向いている。」と言われました。この一言がきっかけとなり、福祉について興味を持つようになりました。でもまだこの時は、「聴覚障害」という四文字が、気にかかっていた。

二つ目は、高等部二年生の時の現場実習です。新居浜にある高齢者の介護を行う施設での、二週間の実習でした。たくさんのことを体験し、自分の適正を考えさせられました。大きな声であいさつをしたことや、利用されるおじいさんおばあさんの名前を覚えて接することが評価されて、「職員の刺激にもなりました。ありがとう。」と言われ、私にもできることがあると分かり、とてもうれしかったです。色々失敗もしましたが、福祉関係の仕事がしたいという思いは、ますます強くなりました。そして何より、自信を持てるようになりました。「やればできる」「聴覚障害を隠すのではなく、相手に伝えることで、道は開ける」こう思えるようになりました。きちんと伝えることで、何ができて何ができないのか、どんなサポートがあればできるようになるのかを、知ってもらえるからです。

松山聾学校には、聴覚に障害のある先生方がいます。その先生方は、色々なことに積極的に参加し、自分の障害について説明して、必要なサポートを受け、活躍されています。中には、世界の聾者が集まる陸上の大会で活躍されている先生もいます。私にとって、良きお手本であり、目標でもあります。

そして、私をそっと後押ししてくださる先生方がいます。応援してくれる友がいます。ずっと私を見守り、育ててくれた両親がいます。このように、私を導き、支えてくれる多くの人たちのことを考えると、「障害なんかには負けない」という気持ちが、自然に芽生えてきます。

私は今、高等部の二年生です。できるチャンスのあることには、積極的に挑戦しています。卓球や華道などの部活動。副会長としての生徒会活動など。これらの活動は、私に勇気と元気をくれ、何事にもチャレンジしていく強い心を植え付けてくれました。「私は聞こえないからどうせできない」と思わず、広い世界にどんどん出て行きたいです。

私が希望している福祉の世界には、様々な分野があります。中でも、私は児童福祉関係の仕事に就きたいと考えています。特に、障害のある子どもや、心に傷をかかえている子どもたちの支えになりたいです。しっかりと子どもたちに寄り添い、心と心で会話ができるような福祉士が、私の理想です。

最近、「共生」という言葉をよく耳にします。障害があることは、決して不幸でも悲しいことでもありません。ましてや、かわいそうなことでもありません。障害を隠すのではなく、相手に伝え、理解し合うことで、障害に関係なく共に生きていくことができるのではないのでしょうか。

私はこれからも自分らしく輝いて生きていきます。

地域の学校に通っている児童生徒の中には、友達と対等な関係を築けずに辛い思いをしている人がいます。大きくなってから松山聾学校に転校してきて、対等な人間関係の中で本来の自分を見出し自信が持てるようになった生徒もたくさんいます。「その子が確かな『自分らしさ』を築ける場所とはー」、しっかり考えなければならない大切な問題です。